香美市立美術館 アートの窓

「色鉛筆で描く花の世界　吉村芳生展」

4月7日（土）～5月6日（日）

黄色いタンポポ、風にゆれるコスモス、紫色のフジの花…どの花も写真と見まちがうばかりです。

一九五〇年、山口県防府市生まれの吉村芳生は、版画やち密な鉛筆画で国内外で高い評価を得てきた画家ですが、一九八五年からは、自然に囲まれた山口市徳地に移り住み、自宅周辺の花々を色鉛筆でち密に写し出す「色鉛筆画」を描いています。

今回は、百五十号（二〇〇×一三二・五㌢）をはじめとする大作約二十五点が並びます。数カ月の時間をかけて完成した作品の花たちは、一瞬、写真と見まちがうほどに細部まで描き出されていますが、その極限のリアリズムの中に優しいニュアンスのある色彩が、花の魅力を際立たせています。

「私の意図は、ただ草花をきれいに描くことではないんです。毎年、家の周りの同じ場所に同じ花が咲く。何の変哲もない田舎の日常です。でもそれが、描くという行為を介すると、こんなにも非日常的な姿に変わる。その驚きを見てほしいわけです」と語る吉村の仕事は、日常を非日常に変えるアートの力のすごさを見せつけてくれます。

左の作品は『フジ』Ｐ五十号（一一六・七×八〇・三）の色鉛筆画です。まず、フジの花を写真に撮り、プリントして、その上に細かい方眼を施します。別に用意した紙にプリントと同じ数だけの方眼を施し、方眼の升目を一つずつ、百色余りの色鉛筆を使い精密に写していくのです。画面に咲く美しく可憐な花々を通して、画家のメッセージが静かに伝わってきます。

八王子宮の桜の季節にふさわしい「花々」の作品は五月六日まで美術館内で咲きほこっています。ご来館をお待ちしています。

（館長・北　泰子）

『フジ』　吉村芳生

市民のひろば　まちの声

◆**ニュースポーツ「マレットゴルフ」教室参加者募集**

健康増進、ストレス解消など特に中高年最適の生涯スポーツとして、香美市教育委員会からも推奨いただいている軽スポーツ「マレットゴルフ」の普及を図るため教室（無料）を開催します。（雨天中止）

【開催日等】 4月の土・日・祝日の10時～15時の間でご希望の時間（1～2時間）

【内容】 マナー、競技規則等の説明とコースレッスン

【問い合わせ先】 事務局・西村☎53－3590

◆**ほほえみワークショップ《アート》参加者募集**

・**内容**＝美術教室（細かい絵を描いてみよう）
・**場所**＝香美市立美術館２階アトリエ
・**募集人数**＝20人程度
・**募集期間**＝４月15日～５月13日（当日でも受け付けます）
・**実施日**＝５月13日（日）
・**参加料**＝３００円（高校生以下無料）
・持ってくるもの＝自分の気に入った小さなグッズ（道でひろった石など）、あれば２Ｈのエンピツ
※チラシは香美市立図書館に置いてあります。
・連絡先＝佐藤文雄
☎０８０－３９２５－７３８４
（明るい社会づくり土佐山田地区推進協議会）

まちの声・まちの風景の投稿方法

住所・氏名・年齢・電話番号（連絡先）を必ず明記して、企画課内広報委員会事務局「市民の広場」係へご投稿ください。
※ＦＡＸまたはＥメールでも投稿できます。（あて先は、最終面に記載しています）

◆かがみ野俳句会◆

むかし話ほつほつ紡ぎ鯨鍋　佐竹　洋子
二月はや菜花咲く畑温き日々　鍵山　和枝
干布団病後の夫のよく眠り　佐藤　幸
母の年いつしか越えて喜寿の春　利根　弘子
薄氷の手水鉢より鳥の私語　古川　信子
早梅へほどよき高さ車椅子　小松　愛子
籠りゐる吾に迫り来る二月句座　西内　保衛
出番なき雲に居直る雪女郎　中澤　美晴
初摘みの蓬餅食ぶ幸せ日　森本　倢代
包丁の銘光りてや事始め　山崎　鈴子
弁柄の出格子覗く雛飾り　吉田　芳

◆かほく句会◆

額広く父となる子に春立てり　乾　真紀子
団塊の人と云はれて冬耕す　奥宮さとみ
働けることの喜び畑を打つ　久保　貴女
氷山のどっと崩るる遠き海　黒岩　幸女
身を締めて踏み出す一歩野水仙　黒岩千英子
豌豆の縋りの竹をひと担ぎ　小松　隆之
やりくりの年金暮らし春の風邪　小松　昇
息災の母の声聞く初電話　杉山　春萌
春雨や電話の声は父親似　西本　昶猪
熱燗の一本をもて今日仕舞ふ　前田　欣一
春の雷ひとつ転げて行きにけり　前田　秀女
二ン月のひかり載せゆく猫車　間崎　和代
春の風邪目玉重たく臥せにけり　山崎かずみ
侘助の庭に重ねし齢かな　山中　晶子
下萌のためらひもなく踏まれけり　山中　瑞輝
大寒に備へし器具の出番なし　山中　明石

◆韮　句　会◆

逸る犬先立て猪狩の山へ急ぐ　吉村　幹愛
三が日事なく過ぎて不精髭　岡本かほる
初暦まづ大安に始まりぬ　高橋　章
鬼瓦にらむ東西手まり唄　公文　春紀
大根干す地産地消の託老所　北村　幸子
西窓に射し入る夕日日脚伸ぶ　西川　常夫
風誘ひとび出づ蒲の穂綿かな　甲藤　卓雄
鐘の音も五重の塔も初霞　野崎　典子
新しき出合ひのありて梅ひらく　北村　里子
切り干しの軒に揺れゐる猫まるし　山中　弘子
初富士や羽織りたるごと雲かかる　明石　英子
氷餅焼く祖母の箸見つつ待つ　竹内　ろ草

◆土佐山田町俳句会◆

立春の畳に拡げ加賀友禅　前田　小夜
山小屋を閉ざして来たと冬遍路　前田美智子
春一番こたびは雨を伴ひて　田村　一翠
水仙を活けて少女の胡座かな　前田　隆明
無名の橋渡り西行の日と思う　樫谷　雅道
流れゆく笑顔のままの雛人形　安丸　槙子
乳噛むは言葉のはじめ蕗の薹　橋本　昭和
日向ぼこ用の間の時計ひとつ打つ　明石　韮生
寒の鯖釣り銭濡れて貰いたり　中澤としみ
生まれ里風車ふたつと馬酔木花　馬場　英男
門口の梅は盛りて主留守　大石　邦男

◆投稿作品◆　広報委員会　選

喫茶店小春日和に散歩する　岡村　和躬
二ン月の野面は人の見えぬまま　岡本　朴舟
初詣清めの水を手の掌に　北村千鶴子
せりの香や七日正月無事に在り　小原　景守
初詣で長き祈りの老二人　小原　子川
登校の列に追いつく白き息　公文多賀子
日向ぼっこ釣談議せし友は亡く　高野　和一
ゴミ出しで埋れし辻の冬菫　三谷　誠郎
鈴なりの金柑西日受けて映え　和田　可代
竹筒に菜の花活けて医院温し　萩野多美子
初桜童のごとき祖母見舞ふ　山崎　貴子
白梅の浮き紅梅の沈みたる　千頭　野草
爺いわく鰻醒ましの春一番　福留ともり
お降りの庭にしずかに雫せり　西尾　玉喜

俳句・短歌の募集について

▼投稿方法は自由。（ただし、官製ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで五句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】
企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-8501　香美市土佐山田町宝町1-2-1
（☎53-3114　FAX53-5958）